

【 基礎現代文化学系 】

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス連番	備考
								科目等履修生	学部聴講生		
8202001	系共通科目(科学哲学)(講義)	講義	2	前期	水3	伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系1	
8204001	系共通科目(科学哲学)(講義)	講義	2	後期	水3	伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系2	
8206001	系共通科目(科学史I)(講義)	講義	2	前期	水2	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系3	
8208001	系共通科目(科学史II)(講義)	講義	2	後期	水2	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系4	
8231001	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系5	
8231002	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系6	
8231003	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治	日本語及び英語	○	○	基礎現代文化学系7	
8231004	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	伊勢田 哲治	英語	○	○	基礎現代文化学系8	
8231006	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火3	瀬戸口 明久	日本語	○	○	基礎現代文化学系9	
8231007	科学哲学科学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	隠岐 さや香	日本語	○	○	基礎現代文化学系10	
8241001	科学哲学科学史(演習)	演習	2	前期	火3	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系11	
8241002	科学哲学科学史(演習)	演習	2	後期	火2	伊藤 和行	日本語	○	○	基礎現代文化学系12	
8241003	科学哲学科学史(演習)	演習	2	前期	金3	伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系13	
8241004	科学哲学科学史(演習)	演習	2	後期	金3	伊勢田 哲治	日本語	○	○	基礎現代文化学系14	
8241005	科学哲学科学史(演習)	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介	日本語	○	○	基礎現代文化学系15	
8241006	科学哲学科学史(演習)	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介	日本語	○	○	基礎現代文化学系16	
8402001	系共通科目(現代史学)(講義)	講義	2	前期	水3	永原 陽子	日本語	○	○	基礎現代文化学系17	
8404001	系共通科目(現代史学)(講義)	講義	2	後期	水3	小野沢 透	日本語	○	○	基礎現代文化学系18	
8902001	系共通科目(メディア文化学)(講義a)	講義	2	後期	金3,金4	喜多 千草	日本語	○	○	基礎現代文化学系19	
8904001	系共通科目(メディア文化学)(講義b)	講義	2	前期	金3,金4	杉本 淑彦・山登 義明・福原 伸治	日本語	○	○	基礎現代文化学系20	
8931024	メディア文化学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	石井 香江	日本語	○	○	基礎現代文化学系21	
8941001	メディア文化学(演習I)	演習	2	前期	水4	杉本 淑彦	日本語	○	○	基礎現代文化学系22	
8941002	メディア文化学(演習I)	演習	2	後期	水4	杉本 淑彦・喜多 千草	日本語	○	○	基礎現代文化学系23	
8944005	メディア文化学(演習II)	演習	2	前期	火2	山本 昭宏	日本語	○	○	基礎現代文化学系24	
8944006	メディア文化学(演習II)	演習	2	後期	火2	山本 昭宏	日本語	○	○	基礎現代文化学系25	
8944010	メディア文化学(演習II)	演習	2	通年	火3	杉本 淑彦・滑田 教夫	日本語	○	○	基礎現代文化学系26	
8433001	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	永原 陽子	日本語	○	○	基礎現代文化学系27	
8433002	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月3	藤谷 由香	日本語	○	○	基礎現代文化学系28	
8433003	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	石井 香江	日本語	○	○	基礎現代文化学系29	
8433004	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史	日本語	○	○	基礎現代文化学系30	
8433005	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史	日本語	○	○	基礎現代文化学系31	
8433006	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志	日本語	○	○	基礎現代文化学系32	
8433007	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志	日本語	○	○	基礎現代文化学系33	
8433008	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	村上 衛	日本語	○	○	基礎現代文化学系34	
8433009	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	村上 衛	日本語	○	○	基礎現代文化学系35	
8433010	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	西山 伸	日本語	○	○	基礎現代文化学系36	
8433019	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金3	塩出 浩之	日本語	○	○	基礎現代文化学系37	
8433020	現代史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金3	塩出 浩之	日本語	○	○	基礎現代文化学系38	

基礎現代文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET32 28202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(上)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。											
[到達目標]											
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 科学とは何か 2 科学的推論 3 個別科学における科学的推論 4 科学的説明 5 個別科学における科学的説明 フィードバックについては授業内で指示する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日 15:00 - 16:30を予定 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET32 28204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(下)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。											
[到達目標]											
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のそれぞれのテーマに2～3週をかけて論じる。 1 实在論と反实在論 2 個別科学における实在論問題 3 科学の変化と科学革命 4 個別科学における変化の問題 5 科学と価値 フィードバックについては授業内で指示する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30を予定 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 3

科目ナンバリング		U-LET32 18206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門 1									
【授業の概要・目的】											
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般にみなされている。しかし人間の営みである以上科学も歴史のなかで誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。</p> <p>近代科学は、17世紀西欧社会において誕生したと考えられている。近世日本（江戸時代）における自然研究および近代日本（明治時代）への西欧科学の導入を、当時の歴史的な文脈の中で理解することは、現代科学の理解にとっても重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義を通じて、科学とは何かという問題を歴史的な側面から考察する視点を養い、江戸時代以降の日本における西欧科学についての理解をより深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目に従って進める予定である。 それぞれについて1 - 3週程度で講ずる。</p> <p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 西欧における科学の誕生と発展</p> <p>(3) 江戸時代の科学</p> <p>1.天文学</p> <p>2.医学</p> <p>3.蘭学と洋学</p> <p>(4) 近代日本の科学</p> <p>1.明治維新前後の科学</p> <p>2.明治期日本の西洋科学の導入</p> <p>3.大正期日本における科学の定着</p> <p>フィードバックについては、授業内に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
中間レポート（50％）と期末試験（50％）によって評価する。評価は到達目標の達成度に基づく。											
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に参考資料を配付するので、予習・復習においては、それらを精読すること。
また授業の際に参考文献の一覧を配布します

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 4

科目ナンバリング		U-LET32 18208 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門 2									
【授業の概要・目的】											
<p>科学とは時間や空間を超えた普遍的なものと一般にみなされている。しかし人間の営みである以上科学も歴史のなかで誕生し発展してきたものであり、その成果も歴史的な文脈によって規定されている。</p> <p>とりわけ近代科学は17世紀西欧社会において誕生したと考えられ、「科学革命」と呼ばれている。「科学革命」を当時の歴史的コンテキストの中で科学的活動を理解することは、現代科学の理解にとっても重要である。</p>											
【到達目標】											
本講義を通じて、科学とは何かという問題を歴史的な側面から考察する視点を養い、17世紀「科学革命」を中心に近代科学の誕生過程についての歴史的理解をより深める。											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、西洋世界における科学の歩みを、古代ギリシアから17世紀「科学革命」までたどる。具体的には、近代科学誕生の際に中心となった天文学と運動論の歴史的変遷を考察する。次のような計画に従って講義を進める予定である。</p> <p>それぞれについて1 - 3週程度で講ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 天文学の歴史 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 天体の運動について 2-2. 古代の天文学：地球中心説（プトレマイオスの理論） 2-3. 近代の天文学：太陽中心説（コペルニクスからガリレオへ） 3. 運動論の歴史 <ol style="list-style-type: none"> 3-1. 古代・中世の運動論：アリストテレスと中世の哲学者たち 3-2. 近代の運動論：ルネサンスの技術者とガリレオ 4. 17世紀科学革命：ニュートンと近代力学の誕生 <p>フィードバックについては、授業内に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
中間レポート（50%）と期末試験（50%）による。評価は到達目標の達成度に基づく。											
【教科書】											
使用しない											
----- 系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に参考資料を配付するので、予習・復習においては、それらを精読すること。
また授業の際に参考文献一覧を配布します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラザフォードと原子核物理学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、英国の物理学者ラザフォード（Ernst Rutherford）を中心に、20世紀初頭における原子核物理学の誕生の過程を検討する。この時期には、放射線、放射能、放射性崩壊が相次いで発見され、原子内の現象を扱う原子核物理学が誕生した。この研究で中心的な役割を果たしたラザフォードの論文の読解を通じてこの過程を考察する。											
【到達目標】											
20世紀初頭の物理学の発展、とくに原子核物理学の誕生について歴史的理解を深め、この時代の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 それぞれについて1-3回程度を当てる。 後半では、出席者に論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション 20世紀初頭の物理学 放射線・放射能・放射性崩壊の発見 ラザフォードの人生と業績 2：ラザフォードらの論文の検討 放射性と放射能 粒子 放射性崩壊 フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表）と期末レポートによって評価する（各50点）。											
【教科書】											
授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 西尾成子 『こうして始まった20世紀の物理学』（裳華房） ハイルブロン 『アーネスト・ラザフォード 原子の宇宙の核心へ』（大月書店）											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

ワイバーグ『新版 電子と原子核の発見』（筑摩書房）
授業中に紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に配布するテキストや参考資料を，授業前および授業後に熟読すること。
また授業中に紹介する参考文献を適宜読むように。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 6

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		大森房吉と近代地震学の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、近代地震学の父と呼ばれる大森房吉の業績を取り上げ、19世紀末から20世紀初頭の日本における地震学、そして地球物理学について検討する。大森房吉の代表的業績である「大森公式」のほか、地震予知をめぐる議論に関しても考察する。											
【到達目標】											
地震学を中心として、20世紀初頭の日本の科学の発展について理解し、この時期の科学史一次文献の読解についての基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目に従って進める予定である。 後半では、出席者にも論文の読解をしてもらう予定である。 1：イントロダクション（各1回） 明治以降の科学の発展と地震学の誕生 大森房吉の人生と背景 2：大森房吉の科学的業績の検討（各3-5回） 余震回数の変化的変化 初期微動継続時間と震源までの距離の関係 地震予知 フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点とレポートによって評価する（各50％）。											
【教科書】											
授業に必要なテキストや参考資料は、担当教員が用意して配布する。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

上山昭博 『地震学をつくった男・大森房吉』(青土社)
金凡性 『明治・大正の日本の地震学』(東京大学出版会)
授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。
授業中に紹介する文献を適宜読むように。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 7

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		リスクの哲学 Philosophy of Risk									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義のテーマは科学の哲学的側面にかかわるさまざまな話題をとりあげる形で毎年変更されます。今回は科学技術にまつわるリスクを哲学的観点から考えます。リスクにまつわる哲学的な問題としては、リスクとはそもそも何か、リスクについてどのような考え方をすればよいか、リスクについて誰にどのような責任があるか、などがあります。この授業では、2012年に出版された『リスク理論ハンドブック』などをてがかりにこれらの問題を順次扱って行きます。また、日本においてリスクをめぐるコミュニケーションや意思決定の問題は特殊な現れ方をしています。そうした特有な側面についても事例を使いながらあわせて考えて行きたいと思えます。</p> <p>The topic of this special lecture varies every year, picking up various topics related to the philosophical aspects of science. This year, we examine risks associated with science and technology from philosophical points of view. To name some philosophical issues related to risk: what is a risk in the first place?; in what way should we think about risk?; who are responsible for risks and in what way? In this class we discuss these issues one by one using mainly a 2012 book titled Handbook of Risk Theory as the guide. In addition, the issue of risk communication and decision making figures in a peculiar manner in Japan; we deal with such peculiar aspects in this class using concrete cases.</p>											
【到達目標】											
<p>科学に対する哲学的なものの見方というのがどのようなものかを理解する。とりわけ、今年度の授業においては、授業内で紹介する議論や観点を理解し、それがリスクの問題とどう関わるかを理解する。</p> <p>To understand philosophical way of looking at science. In particular, this year, this means understanding arguments and positions introduced in the class and seeing what are their implications for the issue of risk.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。 以下は扱うトピックの暫定的リストです。（一項目に1-2週かけます）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リスクの哲学の全体像 2 リスクと安全の概念 3 文化としてのリスク 4 事例研究（1）：公衆衛生とリスク 5 リスクと決定理論 6 リスク認知 7 リスクの倫理学 8 事例研究（2）：地震のリスク 9 リスクと公平性 10 リスクと責任 											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

1 1 事例研究(3): 原子力のリスク
課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。

The lectures will be given both in Japanese and English.

Tentative list of topics (we will spend one or two weeks for each topic)

1. Overall picture of philosophy of risk
2. Concepts of risk and safety
3. Risk as culture
4. Case study (1) : public health and risk
5. Risk and decision theory
6. Risk perception
7. Ethics of risk
8. Case study (2): risk of earthquake
9. Risk and impartiality
10. Risk and responsibility
11. Case study (3): risk of nuclear energy

Regarding the feedback on your assignments, more information will be given in the class.

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点及び達成度]

中間の論文計画の提出(25%)と期末論文の提出(75%)を総合して100点満点(60点以上合格)で評価する。

評価は、授業で取り上げられた理論が適切に理解できているか、そうした理論が適切に具体例に適用できているか、という視点から行われる。講師の中間論文計画へのコメントへの反応も評価の対象となる。

A midterm paper project and the final paper. The project and the final paper as a whole is evaluated numerically, where the full mark is 100 and a passing mark is above 60.

The assessment is done from the viewpoint of (1) whether the paper reflects proper understanding of the theories discussed in the class and (2) whether the theories are properly applied to concrete cases.

Responsiveness to the instructor's comment to the paper project is also assessed.

[教科書]

主に以下の書籍から関連箇所を授業内で配布

Sabine Roeser et al. eds. (2012) Handbook of Risk Theory: Epistemology, Decision Theory, Ethics, and Social Implications of Risk, two vols. Springer.

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Students are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.
Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 8

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		科学的实在論論争の過去と現在									
【授業の概要・目的】											
<p>科学的实在論論争は、科学が指定する観察不可能な対象の存在についてどのような態度をとるべきかということについての論争である。この論争の基本的な枠組みは1980年代につくられたが、関連する論争はそれ以前から行われており、なぜこの論争が現在の形をとっているかを理解するには、それまでの流れを理解することも重要である。今回の授業では、科学哲学において「实在」がどのように論じられてきたのかを歴史的なパースペクティブの上で捉え直すとともに、現在論争がどのような状況にあるか、とりわけ科学の諸分野における实在の問題について何が論じられているかを紹介する。</p>											
【到達目標】											
<p>科学的实在論論争の歴史的な展開を理解するとともに、科学が指定する対象への態度について現在どのような立場があるか、および、さまざまな領域でこの問題がどのような形をとっているかを理解し、批判的な検討ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマを扱う予定（一項目に1-2週かける）</p> <p>第一部 歴史的背景</p> <p>1 19世紀の論争</p> <p>2 論理実証主義の实在に関する立場</p> <p>3 論争の成立</p> <p>第二部 現在の論争</p> <p>4 構成的経験主義</p> <p>5 悲観的帰納法と想定されざる対案</p> <p>6 選択的实在論</p> <p>7 パースペクティブ主義</p> <p>第三部 さまざまな領域における实在の問題</p> <p>8 物理学における实在論</p> <p>9 歴史科学における实在論</p> <p>10 化学における实在論</p> <p>11 認知科学における实在論</p> <p>12 まとめ</p>											
<p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>											
【履修要件】											
<p>特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

[教科書]

以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布
Saatsi, ed. (2018) Routledge Handbook for Scientific Realism. Routledge.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 9

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境としての科学技術									
【授業の概要・目的】											
この授業では、科学技術がどのように現代の環境をつくりあげているのか考える。現代においては、科学技術は単なる道具ではなく、私たちが生きる世界そのものをつくりあげている。それはどのようなものか、科学技術史と科学技術論の両面から検討していく。話題はおもに日本における歴史的な事例から取り上げるが、世界的な文脈についても視野に入れて論じる。											
【到達目標】											
科学技術がつくりあげる世界についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術がつくる環境【2週】 ガイダンス、3.11と科学技術論 2. 自然環境【3週】 野生動物、野鳥、害虫 3. 地下の人工環境【2週】 炭鉱、地下街、大気 4. 都市の人工環境【2週】 時間、鉄道 5. 人工環境としての地球【2週】 情報社会、人新世 6. 環境の科学技術論【2週】 技術哲学、技術史 7. まとめと総括【1週】 8. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
最終レポート(60%)、中間レポート(2回、40%)											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献については授業中にリストを配布する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28231 LJ34										
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 隠岐 さや香 確認用
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		自然科学と人文社会科学の系譜学										
【授業の概要・目的】												
<p>近年は自然科学史だけでなく、経済学・社会学などの社会科学（Social Science）や文学・文献学などの人文（科）学（Humanities）の歴史研究が進展し、忘れられていた諸学間の関係性や影響関係が見直されつつある。この講義ではいくつかの具体的事例や史料を用いつつ、主に17-19世紀の西欧世界で、自然科学・社会科学・人文科学という三つの分類が出現する経緯を思想史的に考察する。それにより、いわゆる文系・理系を越えた知の歴史として科学史を理解する視座の獲得を目指す。</p>												
【到達目標】												
<p>本講義の目標は、以下の二点である。</p> <p>1) 自然科学・社会科学・人文社会科学について思想史的に考察する姿勢を身につける。 2) 異分野間の影響関係について具体的な事例から理解する。</p>												
【授業計画と内容】												
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 人文主義とアカデミーの文化 3. 17世紀における科学と政治(1)統治の技法 4. 17世紀における科学と文芸(2)分野別アカデミー 5. 『百科全書』時代の学問体系 6. 蓋然性の探究と法学・数学 7. 18世紀の道徳科学(1)コンドルセの社会数学 8. 18世紀の道徳科学(2)文明史と進歩主義思想 9. 19世紀の道徳科学(1)観念の分析・統計学 10. 19世紀の道徳科学(2)政治経済学・司法 11. 自然科学から社会科学へ：ジョン・スチュアート・ミルの『論理学』 12. 社会科学から自然科学へ：ダーウィニズムと「分業」観 13. 「人文（科）学」の目覚めと自然科学 14. 人文社会科学・自然科学とジェンダー 15. 総合討論 												
【履修要件】												
特になし												
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----												

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業参加(30%)
授業終了時のレポート(70%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義中に指示をする。
ただし講義への積極的な参加と、講義中に提示された文献の読解を推奨したい。

(その他(オフィスアワー等))

シラバスは変更することがある。変更の場合は授業内で通知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マクリントックと「動く遺伝子」の発見									
【授業の概要・目的】											
この授業では、米国の遺伝学者マクリントック (Barbara McClintock) を取り上げ、20世紀中頃の遺伝学の歴史に関する理解を深める。マクリントックは、トウモロコシにおける「動く遺伝子」(トランスポゾン) の発見によって、ノーベル生理学賞を受賞している。彼女の論文の読解を通じて、当時の遺伝学の実験と理論について考察する。											
【到達目標】											
20世紀の遺伝学の発展についての理解を得るとともに、英語の原典史料を読解する能力を獲得することを目指す。											
【授業計画と内容】											
イントロダクション(2回)ののち、マッキントックの英語論文を読解する(第3回以降)。 以下の項目に従って進める予定である。 1: イントロダクション 20世紀遺伝学の概要 マクリントックの人生と行政記 2: マクリントックの論文読解(読解する論文の順序については出席者と相談の上決定する) "Correlation of cytological and genetical crossing-over in Zea mays." (1931) "Mutable loci in maize." (1951) "The significance of responses of the genome to challenge"(Nobel lecture) (1983) フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(出席および発表)と期末レポートによって評価する(各50点)。 到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) ケラー 『動く遺伝子 トウモロコシとノーベル賞』(晶文社) 渡辺政隆 『DNAの謎に挑む』(朝日新聞社)											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

授業中に紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に配布するテキストや参考資料を，授業前および授業後に熟読すること。
授業中に紹介する文献を適宜読むように。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 1 2

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		伊藤 和行 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ナイチンゲールと医療統計の誕生									
【授業の概要・目的】											
この授業では、ナイチンゲール（Florence Nightingale）を取り上げ、19世紀における医療統計学の誕生過程に関する理解を深める。ナイチンゲールは、クリミア戦争における英国軍病院の状況に関する統計報告を作成したが、これは医療統計の始まりと評価されている。この報告書の読解を通じて、当時の統計学について考察する。											
【到達目標】											
19世紀中頃の医療統計学についての理解を得るとともに、19世紀の英語科学文献を読解する基礎的な能力を獲得することを目指す											
【授業計画と内容】											
最初の2回程度をイントロダクションにあて、第3回からはナイチンゲールの報告書を読解する。以下の項目に従って進める予定である。 1：イントロダクション 19世紀の医療と統計学 ナイチンゲールの人生と業績 2：ナイチンゲールの医療統計学の報告書の読解 Notes on Matters Affecting the Health, Efficiency and Hospital Administration of the British Army (London, 1858) フィードバックについては、授業内に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席および発表）と期末レポートによって評価する（各50点）。到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業で使用するテキスト等は、担当教員が準備して配布する。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

多尾清子 『統計学者としてのナイチンゲール』 (医学書院)

小玉香津子 『ナイチンゲール』 (清水書院)

授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配布するテキストや参考資料を、授業前および授業後に熟読すること。

テキスト読解の十分な予習は不可欠である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィールド科学における測定									
【授業の概要・目的】											
<p>科学哲学は伝統的に物理学をはじめとした厳密科学を主な研究対象としてきた。その背景として、そうした分野は論理学などのツールを使った分析が行いやすいといった理由が考えられる。しかし、近年になって観察科学や社会科学など、厳密な測定の難しい非厳密科学にも科学哲学の分析が及ぶようになってきた。この演習ではMarcel Boumansの『ラボの外の科学：フィールド科学と経済学における測定』を手がかりに、フィールド科学における測定はどういう問題に直面し、それをどう解決していけばいいのか、そのことについて科学哲学は何が言えるのか、を一緒に考察していきたい。</p>											
【到達目標】											
Boumansのフィールド科学における測定についての考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boumans, M. (2015) Science Outside the Laboratory: Measurement in Field Science and Economics. Oxford University Press. 第4章までを主に読む。</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>											
【履修要件】											
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。</p>											
【教科書】											
「授業計画と内容」で挙げた書籍から授業に使用する部分を配布											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		文化進化論の現在									
【授業の概要・目的】											
ロバート・ボイドはピーター・リチャードソンとの共同研究による「二重継承説」で知られる人類学者である。これは人類進化（とりわけ協力行動の進化）において生物学的進化と文化的進化の相互作用が重要な役割を果たしてきたという立場である。今回の演習では、ボイドの講義と数人の論者によるボイドへのコメントを集めた『異なる種類の動物：文化はいかに人類を変えてきたか』を手がかりに、文化進化論の現在について考える。											
【到達目標】											
ボイドの文化進化についての考え方や、それに対するコメントを理解し、批判的に検討できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Boyd, R. et. al (2018) A Different Kind of Animal: How Culture Transformed Our Species. Princeton University Press. ボイドによる第一章とコメンテーターによる第三章-第五章を中心に読む。 基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。 課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。											
【履修要件】											
特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。 発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかが評価基準になる。											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[教科書]

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何を学ぶ学問か 形式言語 最小命題論理の - 導入規則および除去規則 最小命題論理の \wedge、\vee - 導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の \rightarrow - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

【教科書】

使用しない
毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

【授業外学習(予習・復習)等】

ハンドアウトなどの授業資料は毎回、事前(1~2日前)にwebsite(上記の授業Blog)にアップする。

学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET32 28241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
[授業の概要・目的]											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
[到達目標]											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
<p>具体的な授業改革は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

【履修要件】

前期の演習「論理学1」を履修すること

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う

【教科書】

使用しない

毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

【授業外学習(予習・復習)等】

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 17

科目ナンバリング		U-LET35 28402 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義) Contemporary History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		永原 陽子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史概論 1900年の世界史									
【授業の概要・目的】											
現代世界の起点、すなわち現代世界の抱える問題が基本的に出揃った時代として、1900年を位置づけることができる。1900年の世界がどのようなものであったのかを概観することを通じて、20世紀から21世紀の今日に至る「現代」の世界の特質を歴史的に考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1900年の世界を個別地域の歴史の総和としてではなく、その同時代性・連鎖性においてとらえる。 ・ 1900年の世界の理解を通じて、「現代」とはどのような時代であるか歴史的に考察する力をもつ。 											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 世界史の方法 2 同時代の三つの戦争 3 暴力の連鎖 4 隔離と絶滅の思想 5 参政権運動と社会浄化運動 6 植民地における参政権 7 ペストの連鎖 8 ペストと隔離 9 中国系移民 10 中国系移民とインド系移民 11 アジア系移民とその規制 12 「白人奴隷」問題と女性移民 13 性の売買と農村=都市関係 14 社会の人種化とその連鎖 15 まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(現代史学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(現代史学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末の試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 28404 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義) Contemporary History(Lectures) (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		小野沢 透 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的位置づけを理解する。 ・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。 											
【授業計画と内容】											
以下のテーマを扱う予定。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？ 2. 近現代世界史という視点 3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり 4. 長い19世紀 資本の時代 5. 長い19世紀 帝国の時代 6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命 7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦 8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」 8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界 10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉 11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉 12. 21世紀 ワシントン・コンセンサスの時代 13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代 14. アメリカ外交史から見た現代史 15. まとめ、フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(現代史学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(現代史学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET37 18902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義 a) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究入門									
【授業の概要・目的】											
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとするれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学の視点を身につけることによって、歴史を通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 課題あたり 1 ~ 3 週 (隔週で週 2 コマ) を使って授業をする。</p> <p>* メディア文化学とは：「ネット文化」を例に</p> <p>* 広告に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* ポピュラー音楽に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* テレビ・ラジオ番組に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* 写真に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* コンテンツの流通に関わる研究領域とその方法論</p> <p>* 最終回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価(ディスカッションへの積極的参加・小レポートの内容など)											
----- 系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)へ続く -----											

系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読・観覧すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 0

科目ナンバリング		U-LET37 18904 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義b) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 テレビプロデューサー 山登 義明 BuzzFeed Japan 動画統括部長 福原 伸治 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究									
[授業の概要・目的]											
現代を特徴づける民衆文化（TV番組と映画）をおもに取り上げ、メディア文化の現場（地上波テレビとネット動画）における状況の変化について考察し、また、映画を中心にカルチュアル・スタディーズのさまざまな方法論を講述する。											
[到達目標]											
テレビの終焉とネット動画の本格的な到来という変化の時期にある今日において、フェイクニュースやpost-truthとどう向き合うのか、その「新しい時代のリテラシー」を身につける。 カルチュアル・スタディーズについて、その研究史への理解を深め、そのうえで、従来の研究が抱える問題点を見つけだす力を養う。											
[授業計画と内容]											
1 課題あたり 1 ~ 3 週（隔週で週 2 コマ）の授業をする。 * オリエンタリズム論(杉本) * テレビの発展と衰退(福原) * 新しいメディアの台頭(福原) * これからのメディアの姿(福原) * テレビドキュメンタリー論入門(山登) * テレビドキュメンタリーの過去・現在・未来(山登) 最終回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価(ディスカッションへの参加)											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で紹介する研究書と映画を、授業後に閲読・視聴すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
TV番組と配信動画、映画(実写とアニメ)を幅広く視聴するように努めてください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 1

科目ナンバリング		U-LET37 38931 LJ36											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 石井 香江 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		「男らしさ」から読み解く現代史											
【授業の概要・目的】													
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>													
【到達目標】													
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>													
【授業計画と内容】													
各2～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。													
<ol style="list-style-type: none"> 1. 男らしさと名誉 2. 身体の再発見 3. 植民地状況における男らしさ 4. 戦争と男らしさ 5. 戦争とセクシュアリティ 6. 戦後の男らしさの行方 													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。													
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----													

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料の他、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

(参考書)

A・コルバン / J-J・クルティーヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』(藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 2

科目ナンバリング		U-LET37 38941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習 I) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		杉本 淑彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 A									
[授業の概要・目的]											
各自が、現代を中心に、メディア文化に関する研究文献（学術書ないし学術論文）を任意で選び、その内容を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。メディア文化の諸問題を幅広く学ぶことが目的である。											
[到達目標]											
既存の学術書・学術論文を読み込むことで、自身に取り組むべき、そして取り組み可能な研究テーマを発見する力を養う。 同時に、研究動向を把握し、先行研究を批判的に理解する力も養うことができる。											
[授業計画と内容]											
1 回目：テーマの選び方、および、文献調査方法について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだ文献について、著者の経歴、内容、評価、当該テーマの関連文献、について紹介する。そのうえで、全員によるディスカッションをおこなう。 最終回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。 また、報告者となることが、単位取得の上で必須である。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学習（予習・復習）等]											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのようなアプローチをしているのだろうか。まず 3～4 点ほどの学術書・論文を熟読することからはじめて、アプローチの仕方を事前に考えよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 3

科目ナンバリング		U-LET37 38941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習 I) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 関西大学 総合情報学部 教授 喜多 千草 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化の諸問題 B									
【授業の概要・目的】											
各自が、現代を中心に、メディア文化に関するテーマを任意で選び、それについてのリサーチ結果を報告する。その後、全員によるディスカッションをおこなう。研究論文執筆につながりうるテーマを選択できる眼力の涵養と、資料発見能力の育成を目的とする。											
【到達目標】											
研究論文を書くには、研究状況と資料状況を踏まえて、自身を取りくみえる研究テーマを発見することが重要である。この授業では、そのような発見力を養う。											
【授業計画と内容】											
1 回目：テーマの選び方について講述する 2 回目以降：各回とも、1 名ないし 2 名の受講生が、任意で選んだテーマについて、研究意義、研究史の整理、論旨、関連文献を報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、報告の問題点を洗い出し、研究論文執筆のうえで今後取り組むべき課題を考える。 最終回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度）による。 また、報告者となることが、単位取得の上で必須である。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
関心のあるテーマについて、既存の学術書・論文はどのような資料を用いて論じているのだろうか。そのことに注意を払いながら、まず 3～4 点ほどの学術書・論文を熟読してみよう。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 2 4

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化からみる集合的 記憶 と集合的 夢									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定のメディア文化を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～6回目：戦争の 記憶 7～10回目：原爆の 記憶 10～11回目：原子力の 夢 12～13回目：宇宙開発の 夢 14～15回目：豊かな生活の 夢 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末のレポート

なお、平常点とは、授業内での個人報告（グループ報告）を指す。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

個人報告（グループ報告）の順番が決まったあとは、担当するメディア文化（映画・マンガ・文学）を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。</p> <p>この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決める）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。</p> <p>選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力を養う。個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ol style="list-style-type: none"> 3～5回目：戦後復興期 6～9回目：高度経済成長 9～10回目：70年代の家族 11～12回目：80年代以降の消費社会 13～14回目：90年代以降の現代 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 2 6

科目ナンバリング		U-LET37 38944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学 (演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉本 淑彦 (有)京都旅企画 代表取締役 滑田 教夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		京都市西山地区の文化観光プロジェクト									
【授業の概要・目的】											
<p>現在の京都市では、東山地区に観光客が集中し、交通渋滞や「京都らしさ」の低下など、さまざまな問題がおこっている。一方、西山地区では、観光客誘致が取り組まれてきたものの、期待された成果が生みだされていない。西山地区の潜在的観光資源を調査したうえで、それを利用した文化観光企画を考案する。</p>											
【到達目標】											
<p>地区の文化的歴史を調査することによりリサーチ力を高め、その歴史を地区の経済的活性化のために利用する工夫を考察することにより企画力を養い、その企画を実際に商品化するプロセスを学ぶことにより提案力を涵養できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 課題あたり 1 ~ 3 週の授業をする。</p> <p>* イントロダクション：「観光を活かした地域づくり」総論 * 宿泊施設の現状と今後の課題 * 文化観光の先例 * 京都市西山地区の観光資源検討 * 西山地区観光客の現状と課題 * 各自が作成した企画案の検討 * 観光商品化へ向けた課題を検討 最終回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 (リサーチ力40点、企画力40点、提案力20点) で評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- メディア文化学 (演習II) (2)へ続く -----											

メディア文化学（演習Ⅱ）（2）

【授業外学習（予習・復習）等】

西山地区を自身の足で歩き、自身の目で観察してください。

（その他（オフィスアワー等））

受け入れ数5名ほどの少人数演習です。
講義希望者が多い場合は、面接による選抜をおこないます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		永原 陽子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		南部アフリカ現代史の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>南部アフリカ（南アフリカおよび周辺諸国）の、アパルトヘイト体制崩壊以降の歴史を、背景となるそれ以前の時期の歴史を含めて、扱う。</p> <p>南部アフリカ諸地域は、第二次世界大戦後にアパルトヘイト体制を本格化させた南アフリカを中心に、世界が脱植民地する時期に、いわばそれに逆行するかのよう、植民地主義と人種主義のさらなる激化を経験した。1990年代以降、その体制が崩壊し、現在に至るまで、大きな社会変動が生まれている。その変動の中で当該社会がどのような課題に直面し、それらをどのように乗り越えようとしているのかを多面的に取り上げる。それを通じて、植民地主義とアパルトヘイトとはどのようなものであったかを考え、さらには、ポストコロニアリズムとコロニアリズムとの関係に考察を及ぼせる。</p> <p>以上のような南部アフリカ社会の検討は、世界各地での脱植民地化や、紛争後社会の体制移行の問題についての理解をも深めることに通ずるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・南部アフリカのアパルトヘイト体制とその前史としての植民地主義について、基本的な事実を理解する。 ・1990年代以降の南部アフリカ社会の変動にかんする基本的事実、人々の抱えている課題とその克服の試みについて、世界史の中に位置づけて理解する。 ・南部アフリカ社会の変動についての理解を通じて、現代世界の抱える基本的な問題としての帝国主義と脱植民地化についての理解を深め、「現代」を考察する視座を得る。 											
【授業計画と内容】											
以下の項目を扱う。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 南部アフリカの現代から世界の現代史を考える 2 前史 植民地主義とアパルトヘイト 3 アパルトヘイト体制の崩壊 4 ANCとネルソン・マンデラの思想 5 新憲法 6 真実和解委員会の活動 7 真実和解委員会の残したもの 8 土地改革の理念と構造 9 土地改革の実際 10 ネオリベラリズムと社会的公正 11 伝統的権威と近代民主主義 12 伝統的権威と伝統法 13 伝統とジェンダー 											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

- 14 「脱植民地化」をめぐる論争
15 まとめとフィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末の試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 庵道 由香 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮近現代史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義では、朝鮮半島の近現代史について、特に朝鮮半島と日本との間に生じている歴史葛藤の問題を、具体的な課題ごとにその研究状況や現状と問題点について史料に即して学ぶことを目的とします。</p> <p>近年、東アジアでの人の移動や文化交流が急速に拡大する一方で、日本と韓国・朝鮮・中国との歴史問題をめぐる葛藤が深刻化しています。日本の朝鮮半島植民地支配や中国侵略の歴史に端を発するこの問題は、今後東アジアに関心を持ち学ぼうとする学生にとっては、いずれ直面しなければならない問題でもあります。何が問題になっているのか、事実関係はどうなのか、問題の本質は何かを、史料と研究に即して学び、それをもとに今後どのように解決していくべきなのかを、今後の東アジア関係のあり方とともに共に考えてゆきたいと思います。</p>											
[到達目標]											
<p>朝鮮近現代史の諸問題や研究状況を理解する。 東アジアの歴史葛藤問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 歴史問題に関わる論点について、事実や資料に即して説明できる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 講義概要(講義の進め方、成績評価、自己紹介など)および概論 2 . 日本と朝鮮半島の歴史葛藤問題を考える 3 . 戦後日韓関係の展開 1 : 日韓相互認識の変遷 4 . 戦後日韓関係の展開 2 : 日韓交渉と日韓条約 5 . 戦後日韓関係の展開 3 : 戦後補償問題の進展 6 . 労働力・兵力強制動員問題 1 : 動員政策の展開と朝鮮社会 7 . 労働力・兵力強制動員問題 2 : 日本における地域運動 8 . 労働力・兵力強制動員問題 3 : 韓国における戦後補償運動の展開 9 . 労働力・兵力強制動員問題 4 : 戦後補償裁判 10 . 労働力・兵力強制動員問題 5 : 近年の状況・まとめ 11 . 日本軍「慰安婦」問題 1 : 「慰安所」制度の構造 12 . 日本軍「慰安婦」問題 2 : 「慰安婦」制度の実態 13 . 日本軍「慰安婦」問題 3 : 「慰安婦」運動の展開 14 . 教科書問題 15 . まとめ <p>講義の進行状況や、受講生の関心によって、講義内容を変更することもあります。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(40点)： コミュニケーションペーパー提出、質疑応答などの参加態度などを総合的に評価する。

レポート(60点)： 講義内で取り扱ったテーマ・人物・事件などの中で関心のあるものを一つ選び、レポートを提出すること。2000字以上とし、論文・書籍などの参考文献を必ず3つ以上利用すること。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

講義中に提示する参考文献や資料を、各自の関心に従い読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

状況に応じて、講義内でグループ討論も考えています。積極的な授業参加を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 石井 香江 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、「男らしさ」の核心をなす「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史（「闘い」・「暴力」が全面化する戦争）で「男らしさ」が果たした役割と帰結について理解し、考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 戦争における「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマについて学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 男らしさと名誉 2. 身体の再発見 3. 植民地状況における男らしさ 4. 戦争と男らしさ 5. 戦争とセクシュアリティ 6. 戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 40点（受講生は毎回コメントシートを提出）とレポート 60点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）で評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

(参考書)

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』 (藤原書店) ISBN:978-4-86578-131-1 (特に購入する必要はありません。)
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 0

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 1

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、将来の食と農の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学習(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 2

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		高木 博志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。前期においては、明治維新から明治期を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 日本的な文化の語り ・ 明治維新と桜 ・ 近現代の桜 ・ 廃仏毀釈と文化財の破壊 ・ 古都奈良の明治維新 ・ 古都京都の明治維新 ・ 1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・ 京都御所から京都御苑へ ・ 明治維新と陵墓 ・ 正倉院御物の成立 ・ フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ ポストン美術館と日本美術 ・ 臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・ 「日本美術史」と文化財保護 ・ 帝室博物館と古都奈良・京都 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

京都において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 3

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		高木 博志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治									
【授業の概要・目的】											
<p>2018年度後期に引き続き、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐる、あるいは「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を、近現代を通じて考えてゆきたい。後期においては、20世紀を中心に論じたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 天皇制と文化財 ・ 史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政 ・ 吉野山・奈良公園の近現代 ・ 嵐山・嵯峨の近現代 ・ 神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮） ・ 黒板勝美とハイマートシュツ（郷土色保存） ・ 帝国における文化財 ・ 近現代の陵墓 ・ 国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟 ・ 内務省と国立公園 ・ 国宝保存法と文部省の文化財行政 ・ 紀元2600年事業と神武天皇聖蹟調査 ・ 伝説・物語と文化財 ・ 戦後改革と文化財の誕生 ・ 世界遺産と日本の文化財保護法 ・ 近代化遺産と陵墓の世界遺産登録問題 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

【授業外学習(予習・復習)等】

奈良において、「文化財と政治」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 4

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 伝統中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義は、こうした仲介者の意義について、伝統中国（主として19世紀中葉まで）における事例を中心に、中国経済の歴史的展開をふまえて考察してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>前近代における中国経済の展開を把握したうえで、伝統中国における仲介者の役割について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 古代中国経済と商業 3. 隋唐帝国経済と商業 4. 宋代商業の発展と仲介者 5. モンゴル時代のユーラシア商業 6. 明代経済の展開と牙行（1） 7. 明代経済の展開と牙行（2） 8. 東アジア海域交流と仲介者 9. 倭寇的状況と仲介地（1） 10. 倭寇的状況と仲介地（2） 11. 明清交替期の海域世界と仲介者 12. 清代海上貿易の展開と仲介者 13. 海域近代の始まりと仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 5

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近現代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展する現在、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割はますます大きくなっている。例えば、企業がある地域に進出する場合、現地の言語・事情に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わるであろう。本講義はこうした仲介者の意義について、近現代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者や現在の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代における仲介者の役割を把握したうえで、前近代や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. アヘン貿易と仲介者 3. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 4. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 5. 苦力貿易と客頭（1） 6. 苦力貿易と客頭（2） 7. 開港場貿易の発展と行棧（1） 8. 開港場貿易の発展と行棧（2） 9. 外国籍華人と在華外国領事の役割（1） 10. 外国籍華人と在華外国領事の役割（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 現代史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 6

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 文学研究科		西山 伸 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代日本大学史									
【授業の概要・目的】											
本講義では、1950年代から現在までの日本の大学の歴史を主な対象とする。現在の大学制度のもととなった戦後改革を踏まえ、高度経済成長、大学紛争、そして近年の大学改革までの時期における大学について、資料にもとづき実証的に検証する。その上で、戦後日本にとって大学はどのような役割を果たしてきたのか、現在の大学が歴史的にどのように形成されたのか、などについて考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後改革から現在に至る大学の形成と展開を資料にもとづき理解する。 ・現代日本社会における大学の役割について歴史的視点に立って考察する。 											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス										
第2回	戦後高等教育改革										
第3回	1950年代の大学と学生										
第4回	高度経済成長期の大学										
第5回	戦後学生運動の展開										
第6回	大学紛争(1)										
第7回	大学紛争(2)										
第8回	大学紛争(3)										
第9回	高等教育の計画的整備										
第10回	大学紛争後の学生										
第11回	規制緩和路線と大学改革の開始										
第12回	大学改革の展開										
第13回	国立大学法人化										
第14回	現在の大学										
第15回	まとめ(フィードバック)										
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>評価方法：毎回の授業時に提出されるコメントとレポート試験の成績により評価する。</p> <p>評価基準：授業の内容を理解した上で、受講者独自の見解を示すこと。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定する文献・史料等に予習・復習として目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

基礎現代文化学系 3 7

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

基礎現代文化学系 3 8

科目ナンバリング		U-LET35 18433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 塩出 浩之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新聞から考える日本・東アジアの近代									
[授業の概要・目的]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアにおける新聞に関する史料・文献を読み、日本・東アジアの近代、特に公共圏の形成・変容について考える。											
[到達目標]											
新聞を研究対象として考察することを通じて、日本の近現代史を世界史の一部として捉える思考方法を身につけるとともに、日本近現代史研究における史料読解の基礎的な能力を養う。											
[授業計画と内容]											
19世紀後半から20世紀初頭の日本・東アジアで発行された新聞を史料として読み、あわせてジャーナリストに関する史料や新聞の歴史に関する学術書や論文を読む(全15回)。参加者の報告および討論を主として進行する。											
フィードバックについては授業時に説明する。											
[履修要件]											
できるだけ、前期・後期を通して参加すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告、討論への参加等の平常点およびレポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で用いるテキスト・史料を必ず読了しておくこと。報告者以外も、質問などを準備して討論に参加することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											